

オーガニック米の単収向上

対象者 甲賀市水口町 農事組合法人 S

【普及活動のねらい】

農事組合法人 S は、平成 23 年から有機栽培の米づくりにチャレンジされ、平成 28 年には有機 JAS 認証を取得、さらに令和 2 年度からは県オーガニック米の生産に取り組みられています。しかし、法人 S では、移植後の活着不良や初期生育の遅延、乗用除草機による苗の踏みつぶし等により令和 2 年産の単収は 10a あたり約 200kg と低収量が課題となっていました。

そこで当普及指導センターでは、オーガニック米の単収向上に向けて、健苗の育成や、苗の踏みつぶし対策として移植作業と中耕除草作業の作業工程の改善等について支援しました。

【普及活動の内容】

減収原因への改善策を施した実証ほの調査

減収への効果的な改善策を検証するため、健苗育成に向けた育苗管理の見直し、初期生育確保のための新しい施肥体系、田植機と中耕除草機が同じ行程をとる動線での作業の実施などの組み合わせによる改善実証ほを設置し、生育・収量調査を行いました。

中耕作業では実際の作業に立ち会い、踏みつぶしが極力生じない作業工程となるようオペレーターと動線を確認し実施しました。また、水管理や施肥について、法人と協議を重ねながら生育経過に応じた適正な栽培管理となるよう支援しました。



オーガニック米栽培ほ場

【普及活動の成果】

育苗作業の日程など育苗管理の見直しにより、健苗を育成することができ、移植後の活着や初期生育を改善することができました。さらに、太植えすることでその効果が高まることもわかりました。また、移植作業と中耕除草作業を同じ行程で行ったことで、苗の踏みつぶしを最小限に抑えることができました。その結果、欠株の減少や雑草繁茂が抑制され、後半の良好な生育に繋げることができ、収量は、目標としていた 10a あたり 300kg を大きく上回り、10a あたり約 350kg まで向上しました。また、オーガニック栽培に適した苗を育成すること、移植作業と中耕除草作業を同一行程で行うことの重要性を実感していただくことができました。

今後は、今年度の調査で効果的と判断された太植えやプール育苗等新しい技術の導入を試しつつ、単収向上に向けた栽培体系の確立と定着に取り組んでいきます。